

内務卿伯爵 山 泉 有 朋 殿
沖繩県下無人島へ國標建設之儀ニ付沖繩県令ヨリ伺出ニ対スル指令ノ儀ニ関シ去ル十一月三十日附ヲ以テ右御指令案相添御照会ノ趣致承知候右ハ當省ニ於テモ御同見ニ候間別紙伺書ニ該案指令文記載且捺印ノ上附屬書類共及御還付候也

久場島、魚釣嶋へ所轄標杭建設ノ義
秘別第一三三号

久場島魚釣嶋へ所轄標杭建設ノ義別帶甲号之通り沖繩県知事ヨリ上申候処本件ニ関シテ別帶乙号ノ通り明治十八年中貴省ト御協議ノ末指令及ヒタル次第モ有之候後廿日其當時ト今日トハ事情モ相異候ニ付別紙閣議提出ノ見込ニ有之候条一応及御協議候也
追テ御回答ノ節別帶御返戻有之候度候也
明治廿七年十二月廿七日

内務大臣子爵 陸 奥 宗 光 殿
野 村 靖 閣
閣 議 提 出 案
別紙標杭建設ニ関スル件閣議提出ス
年 月 日

内閣總理大臣宛
(別紙)
沖繩県下八重山群島ノ北西ニ位スル久場島(原ノ)魚釣島ハ從來無

及上申置候ニ付去十月廿二日本県雇汽船出雲丸ノ先島航海掃路ニ於テ取調可致命ヲ含メ本県五等属石沢兵吾外両三名差遣シ候処別紙写之通復命書并ニ出雲丸報告書差出候依テ熟考スルニ最初清国ト接近スルノ疑ヲ抱キ何レニ属スルヤ否ニ到テハ甚タ不決断ノ語ヲ添へ上申候得共今回ノ復命及報告書ニ拠レハ勿論貴重ノ島嶼ニハ無之候得共地形ヨリ論スルトキハ即チ我八重山群島ノ北西ニシテ与那国島ヨリ遙ニ東北ニ位スレハ本県ノ所轄ト御決定相成可然哉ニ被考候果シテ然ハ大東島ノ例ニ倣ヘ本県所轄ノ標杭魚釣島久場島へ船便都合ヲ以テ建設致可然哉并ニ宮古島ノ南方ニ有之「イキマ」島及八重山島属波照間島ノ南ニ有之南波照間島ノ有無共雇汽船出雲丸ノ先島航ノ序ヲ以テ探究致可然哉前頭兩条何分ノ御指揮ヲ仰度此段上申候也
明治十八年十一月五日

内務卿伯爵 山 泉 有 朋 殿
書面伺ノ趣目下建設ヲ要セサル儀ト可心得事
明治十八年十二月五日

外務卿伯爵 井 上 馨
内務卿伯爵 山 縣 有 朋

甲 第 一 号
魚 釣 島 外 二 島 ノ 所 轄 決 定 ニ 関 シ 伺 ノ 件

管下八重山群島ノ内石垣島ニ接近セル無人島魚釣島外二島ノ義ニ付十八年十一月五日第三百八十四号伺ニ対シ同年十二月五日付ヲ以テ御指令ノ次第モ有之候処右ハ無人島ナルヨリ是迄別ニ所轄ヲモ不相

人島ナレトモ近来ニ至リ該島へ向ケ漁業等ヲ試ムル者有之之カ取締ヲ要スルヲ以テ全県ノ所轄トシ標杭建設致度旨同県知事ヨリ上申有之右ハ同県ノ所轄ト認ムルニ依リ上申ノ通り標杭ヲ建設セシメントス
右閣議ヲ請フ
甲 第 百 一 十 一 号

久場島魚釣島へ本県所轄標杭建設之義ニ付上申

本県下八重山群ノ北西ニ位セル無人島久場島魚釣島之義本県所轄トシ大東島ノ例ニ倣ヒ本県所轄ノ標杭建設致度儀ニ付去ル十八年十一月五日第三百八十四号ヲ以テ上申仕候処同年十二月五日付ヲ以テ目下建設ヲ要セサル儀ト可相心得旨指令相成候処近來該島へ向ケ漁業等ヲ試ミル者有之取締上ニモ關係不尠義ニ付去ル十八年鑛々上申仕候通本県ノ所轄トシ其目標建設仕度候条至急仰御指揮度儀キノ上申書及御指令写相添へ此段重テ上申候也
明治廿六年十一月二日

沖繩県知事 奈良原 繁 閣
内務大臣伯爵 井 上 馨 殿
外務大臣 陸 奥 宗 光 殿
第三百八十四号

魚 釣 島 外 二 島 実 地 取 調 ノ 義 ニ 付 上 申

本年九月第三百十五号ヲ以テ本県ト清国福州間ニ散在セル無人島ナル久米赤島久場島魚釣島ノ景况聞取書ヲ添へ先以テ実地視察可為致

定其儘ニ致置候処昨今ニ至リ水産取締ノ必要ヨリ所轄ヲ被相定度旨八重山島役所ヨリ伺出候次第モ有之旁此際管下八重山島役所々轄ニ相定度此段相伺候也
明治廿三年一月十三日

内務大臣宛
明治廿八年一月十一日發遣
親展第二号

外務大臣子爵 陸 奥 宗 光
内務大臣子爵 野 村 清 殿

久 場 島 及 魚 釣 嶋 へ 所 轄 標 杭 建 設 ノ 件

久場嶋及魚釣嶋へ所轄標杭建設ノ義ニ付沖繩県知事ヨリノ上申書及明治十八年中全県へノ指令案相添へ客年十二月廿七日附秘別第一三三号ヲ以テ御照会ノ趣了承本件ニ関シ本省ニ於テハ別段異議無之候付御見込ノ通り御取計相成可然ト存候依テ右附屬書類相添へ此段回答申進候也
内務省秘別一三三号ノ内
明治廿八年一月廿二日

主 査 府 県 課 長 印

県 治 局 長 印

大 臣 印
次 官 印
外 務 大 臣

次官印
政務局長印

久場島魚釣島へ本県所轄標杭建設ノ件

沖繩県

右閣議決定済ニ付左案御指彈可相成歟
案
内務省指令 号

沖繩県
明治廿六年十一月二日付中野百十一号上申標杭建設ニ関スル件聞
届ノ
年 月 日

内閣批第一六号

明治廿八年一月十二日秘別第一三三号
標杭建設ニ関スル件請議ノ通
明治二十八年一月廿一日

内閣總理大臣伯爵 伊藤 博文 印

本文指令淨書シ調印ノ上
内務省へ返付ス
廿八年二月二日

内務省秘別一三三号

明治廿七年十二月十五日

主査府県課長印

県治局長印
大臣印

次官印

参事官印

庶務局長印

久場島魚釣島へ所轄標杭建設之義上申

沖繩県

本件ニ関シテハ別紙ノ通明治十八年中伺出候得共清国ニ交渉スルヲ
以テ外務省ト御協議ノ末建設ヲ要セサル旨指令相成其旨太政官ニモ
内申相成候処其当時ト今日トハ大ニ事情ヲ異ニ致候ニ付標杭建設ノ
義御請届ノ積リヲ以テ左案相伺候

(本文魚釣島久場島ニ関スル地理ノ沿革等遂調査候得共何分其要
綱ヲ得ス海軍省水路部二百十号地圖ノ八重山島ノ東北方和平山及
釣魚島ノ二島ハ右ニ該当スルモノノ如シ而メ同部員ノ口陳ニ依レ
ハ右ニ島ハ別ニ從來何レノ領土トモ定マラサル趣ニ有之地形上沖
繩群島中ノ一部ト認ムヘキハ当然ノ義ト被著候間先以テ本文ノ通
取調候)

閣議提出案

別紙標杭建設ニ関スル件閣議提出ス

年 月 日

大臣

總理大臣宛

(別紙)

参事官印

久場島、魚釣島へ所轄標杭建設ノ義ニ付上申

沖繩県

右案一応照会可然歟仰裁

追テ本件ハ別紙ノ通り明治十八年中伺出候得共清国ニ交渉スルヲ
以テ外務省ト御協議ノ末建設ヲ要セサル旨指令相成併セテ太政官
ニモ内申相成候件ニ有之候

照会案

客年十一月二日付ヲ以テ久場島、魚釣島へ所轄標杭建設ノ義上申相
成候処左ノ件承知致度

- 一 該島港灣ノ形状
- 一 物産及土地開拓見込ノ有無
- 一 旧記口碑等ニ就キ我國ニ属セシ証左其他
- 一 宮古嶋八重山島等トノ從來ノ關係

右及照会候也

年 月 日

県治局長

親展

沖繩県知事

右ノ外附別紙書類

一 明治廿六年十一月二日甲第一二号沖繩県知事ヨリ内務外務兩大臣

宛

一 内務大臣ヨリ外務大臣へ照会案

沖繩県下八重山群島ノ北西二位スル久場島魚釣島ハ從來無人島ナレ
トモ近來ニ至リ該島へ向ケ漁業等ヲ試ムル者有之之レカ取締ヲ要ス
ルヲ以テ全県ノ所轄トシ標杭建設致度旨同県知事ヨリ上申ノ通り標
杭ヲ建設セシメントス右閣議ヲ請フ
秘第一二号ノ内
復第百五十三号
久場島魚釣島港灣ノ形状及其他ノ件ニ付秘別第三四号御照会ノ趣了
承致候然ル処該島ハ去ル十八年中県属警部等派出踏査セシメ候以來
更ニ実地調査致ササルヲ以テ確報難及候得共当時出張員ノ調書及回
航船出雲丸船長報告書ハ別紙ノ通りニ有之候条其写シ并略図相添へ
此段及御回答候也

明治廿七年五月十二日

沖繩県知事 奈良原 繁 印

内務省県治局長 江 木 千 之 殿

追テ該島ニ関スル旧記書類及我邦ニ属セシ証左ノ明文又ハ口碑
ノ伝説等モ無之古來県下ノ漁夫時々八重山島カラ南嶋へ渡航漁
漁獵致シ候關係ノミ有之候条此段申添候也

甲六九号

内務省秘別第三四号

明治廿七年四月十四日

主査府県課長印

県治局長印

大臣印

次官印

一明治十八年十一月四日 石沢沖繩縣屬カラ孫沖繩縣大書記官へノ
魚釣島外二島巡視取調概略報告書

一明治十八年十一月二日 林出雲丸船長カラ杏沖繩縣大書記官へノ
魚釣久場久米赤嶋回航報告書

一明(治)廿八年一月十一日 親展送第二号外務大臣カラ内務大臣
宛

一別紙閣議提出案

一明治十八年十一月五日 沖繩縣令カラ内務卿宛第三八四号

一明治廿三年一月十三日 沖繩縣知事カラ内務大臣宛甲第一号

一明治廿三年二月七日 末松県治局長カラ沖繩縣知事宛沖繩第六号

一明治廿三年二月廿六日 沖繩縣知事カラ県治局長宛

一明治十八年十月九日 内務省カラ外務省へノ照会案

一明治十八年九月二十二日 沖繩縣令カラ内務卿宛久米赤嶋外二嶋
取調ノ義ニ付上申書

一明治十八年九月二十一日 石沢沖繩縣屬カラ沖繩縣令宛久米赤嶋
久場島魚釣島ノ三島取調書

一内務卿カラ太政官へノ上申案

一明治十八年十月 外務卿カラ内務卿宛

一明治十八年十一月廿四日 沖繩縣令カラ外務内務兩卿宛

一明治十八年十一月廿七日 内務省廻議案

・無人島ヲ疏黄島ト命名ノ件(抄)

明治二十四年

月二十一日閣議ノ決定ヲ経テ内務外務兩大臣ヨリ議ニ上申中ノ標杭
建設ノ件閣議夕旨沖繩縣知事へ指令アリタリ

沖繩縣の部編成に関する勅令(第十三号)

朕沖繩縣ノ部編制ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十九年三月五日

内閣總理大臣
内務大臣

(説明)

沖繩縣ハ現今分テ八區畫トシ各區畫ニ一役所ヲ置ク役所長一人屬
及雇各若干人ヲ以テ之ヲ組織シ役所長ハ縣ト間切トノ間ニ監督ノ
一段階ヲ成シ部長ト同ク特別ノ委任條件ヲ有シ役所長ノ名ヲ以テ
文書ヲ往復スル者ナレトモ官制ニ於テ別ニ之ヲ認メタルモノナク
單ニ縣屬ノ職名ニ過キス若殿正ニ之ヲ論スレハ官制ニ違反スル不
法制度ナリト謂ハサルヲ得サルヘシ故ニ地方制度ヲ改正スルニ當
テハ先ツ役所ノ組織ヲ改メ其ノ權限ノ由ル所ヲ明ニシ其ノ官吏ノ
身分ヲ定メ間切行政ノ監督者タルニ適應スル位地ヲ與ヘサルヘカ
ラス

役所及役所長ノ名稱ハ置縣後ニ起リタルモノニシテ別ニ舊慣ニ根
底ヲ有スルモノニ非ス又現今ノ役所管轄區域ハ古來自カラ各一區
畫ヲ成シタルモノナレトモ此ノ區畫ニ對シ普通ノ稱呼アルナク本
島内ノ區畫ニ對シテハ地方ト云フカ如キ漠然タル稱呼ヲ用キルニ
過キス若強テ役所長ノ稱呼ヲ存セントセハ一般法令ノ適用上種々

久米赤島、久場島及魚釣島版圖編入経緯

沖繩縣ト清國福州トノ間ニ散在スル久米赤島(久米島ヨリ未申ノ
方大凡七十里ヲ距テアリ清國福州ヲ去ル或ハ二百里ニ近カラシ歟)
久場島(久米島ヨリ未申ノ方大凡百里ヲ距テ八重山島ノ内石垣島ニ
近接セル大凡六十里余ニ位ス)及魚釣島へ方位久場島ト同一ニシテ
只十里程遠シ)ノ三島ハ別ニ清國所屬ノ証跡見エス且ツ沖繩所轄ノ
富古八重島等ニ接近セル無人島嶼ナルヲ以テ國標取建ニ關シ沖繩縣
知事ヨリ上申アルタルヲ以テ右ノ詮議方太政大臣へ上申スルニ先ケ
明治十八年十月九日山縣内務卿ヨリ井上外務卿へ意見ヲ徵シ米レリ
外務卿ハ熟考ノ結果本島嶼カ清國國境ニ近接セルコト叢爾タル島嶼
ナルコト、當時清國新聞紙等ニ於テ本邦政府カ台湾近傍ノ清國所屬
島嶼ヲ占拠セシ等ノ風説ノ掲載セラレ清國政府ノ注意ヲ促シ居ルコ
ト等ノ理由ニ拠リ國標ノ建設島嶼ノ開拓ハ他トノ機會ニ讓ル方然ル
ヘキ旨、十月二十一日回答セリ 依テ十二月五日内務財務兩卿ヨリ
目下建設ヲ要セサル儀ト可心得旨沖繩縣知事へ指令アリタリ
明治二十三年一月十三日沖繩縣知事ヨリ本件島嶼ハ從來無人島ナル
ヨリ別ニ所轄ヲ定メス其儘ニ存シ置キタル所近時水産取締ノ必要ヨ
リ所轄ヲ定メラレ度キ旨八重山島役所ヨリ伺出アリタルニ付旁管轄
所定方内務大臣へ上申アリタリ
明治二十六年十一月二日更ニ沖繩縣知事ヨリ當時ニ至リ本件島嶼
へ向ケ漁業等ヲ試ムル者アルニ付之カ取締ヲ要スルヲ以テ同県ノ所
轄ト存シ標杭建設シタキ旨内務外務兩大臣へ上申アリタリ依テ二十
七年十二月二十七日内務大臣ヨリ本件閣議提出方ニ就キ外務大臣へ
協議アリタルモ異議ナカリシヲ以テ閣議へ提出ノ上明治二十八年一

ノ困難ヲ生スヘク又區畫ニ附スル二部ノ名稱ヲ以テスルニ非サレ
ハ更ニ特別ノ名稱ヲ附セサルヘカラサルノ不便アリ故ニ寧ろ此レ
等ノ稱呼ヲ廢シ府縣普通ノ例ニ倣ヒ區畫ヲ部ト稱シ各部ニ部長若
クハ島司ヲ置クノ制ヲ執ルニ如カストス而シテ本令ハ單ニ其ノ區
畫ヲ定ムルニ止メ其ノ職員等ニ關シテハ別段ノ勅令ヲ以テ之ヲ定
メントス

勅令第十三號

(説明)

部制ヲ施行セサル地方ノ部ノ編制ハ概シテ法律ニ依ルコトヲ要セ
ス即チ部區町村編制法ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ措置スルコト
ヲ得ルモノナリ唯法律ニ關係ヲ及ボス場合ニ於テノミ法律ヲ以テ
セハ足レリトス而シテ部編制ノ目的部制施行ノ準備ニ存シ且其ノ
關係スル所衆議院議員選舉區等ニ止マルモノハ仍法律ニ依ルコト
ヲ要セサルナリ(明治廿三年法律第八十五號)然ルニ部制ニ於テ
部ノ區畫分合及部界ノ變更ハ法律ヲ以テスルコトヲ要スト爲シタ
ルモノハ部ハ行政區畫タルノミナラス兼テ自治體ヲ組成スル關係
ヲ有スルモノアルニ由ラスンハアラス而シテ部制施行ノ爲ニスル
部編制ニ關シテハ其ノ法律ヲ以テスルコトヲ要セサルモノヲモ學
ケテ法律案トシテ之ヲ議會ニ提出スヘキモノト爲スハ部制ノ規定
ト第一回議會以來ノ先例トニ權衡ヲ執ルニ在リテ敢テ其ノ性質上
悉ク法律ヲ以テセサルヘカラスト爲スニハ非ス沖繩縣ノ如キニ於
ケル部ノ編制ハ法律ニ關係ヲ及ボスモノナク又行政區畫タル外未
タ自治體ヲ組成スルノ關係ヲ生セサルモノナレハ前陳ノ例ニ依リ
法律ヲ以テスヘキノ理由ヲ見ス依テ勅令ヲ以テ之ヲ定メントス